

学科	理容科	担当教員	宗像				
科目名	関係法規・制度	学年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	8		
教育目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会における法の役割、法と国家の関係、法の種類及び衛生法規について理解する。</li> <li>国と地方の行政関係、衛生行政及び保健所について理解する。</li> </ul>						
授業回	学習内容			備考			
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>法制度の概要</li> <li>社会生活における法の役割</li> </ul>						
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生行政の概要</li> <li>衛生行政の意義と歴史</li> </ul>						
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生行政を担う行政機関</li> <li>保健所の役割と機構</li> </ul>						
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>期末試験（前期）</li> </ul>						
到達目標	法制度の概要や用語や法律の考え方を理解し、学内における期末試験の合格と、国家試験合格レベル（習熟度）に向け基礎力を持つ。						
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本理容美容教育センター指定教科書</li> <li>理容師法関係法令集・美容師法関係法令集</li> </ul>						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	宗像				
科目名	関係法規・制度	学年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	8		
教育目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会における法の役割、法と国家の関係、法の種類及び衛生法規について理解する。</li> <li>国と地方の行政関係、衛生行政及び保健所について理解する。</li> </ul>						
授業回	学習内容			備考			
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>理容師法・美容師法</li> <li>目的・用語の定義</li> </ul>						
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>理容師・美容師に関する規定</li> <li>養成施設、・免許と登録</li> </ul>						
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>理容師・美容師の義務</li> <li>業務停止・免許取消及び再免許、・管理理容師・管理美容師</li> </ul>						
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>期末試験（後期）</li> </ul>						
到達目標	法制度の概要や用語や法律の考え方を理解し、学内における期末試験の合格と、国家試験合格レベル（習熟度）に向け基礎力を持つ。						
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本理容美容教育センター指定教科書</li> <li>理容師法関係法令集・美容師法関係法令集</li> </ul>						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	佐藤				
科目名	衛生管理(公衆衛生・環境衛生)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8		
教育目標・ ねらい	公衆衛生の意義と課題また環境衛生においての発展の歴史に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全、かつ衛生的に施術することができる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	1編 公衆衛生 第一章 公衆衛生の概要 1節 公衆衛生の意義と課題						
2	2節 公衆衛生発展の歴史 ①欧米の公衆衛生						
3	2節 公衆衛生発展の歴史 ②我が国の公衆衛生の歩み ③消毒法の歴史						
4	期末試験 (前期)						
到達目標	理容師として必要な公衆衛生を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。						
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本理容美容教育センター指定教科書</li> <li>・配布プリント</li> </ul>						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理(公衆衛生・環境衛生)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	理容師・美容師と公衆衛生の繋がりを理解し、知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全、かつ衛生的に施術することができる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	3節 理容師・美容師の公衆衛生 ①歴史の中の理容師・美容師と公衆衛生、②公衆衛生と理容師・美容師				
2	4節 保健所と理容業・美容業				
3	第二章 1節 保健 ①保健・母子保健・成人・高齢者保健・精神保健				
4	期末試験 (後期)				
到達目標	理容師として必要な公衆衛生を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本理容美容教育センター指定教科書</li> <li>・配布プリント</li> </ul>				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	佐藤				
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8		
教育目標・ ねらい	感染症の分類や発生の要因、予防に関する知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができるようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	1章 感染症の総論 1節 人と感染症 ①感染症発見の歴史 ②感染症と法律 ③感染症の分類			プリント			
2	2節 病原微生物 ①微生物の種類 ②微生物の形と大きさ ③微生物の構造 ④微生物の増殖と環境の影響			プリント			
3	3節 感染症の予防 ①微生物の病原性と人体の感受性 ②汚染、感染及び発病 感染症まとめ（期末試験対策）			プリント			
4	期末試験（前期）						
到達目標	理容師として必要な感染症に対する知識を学び、国家資格を得るために十分に必要な知識を習得している。						
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。 なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書 配布プリント						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	佐藤				
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8		
教育目標・ ねらい	理容・美容と感染症の繋がりに関する知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	3節 感染症の予防 ③常在細菌 ④免疫と予防接種			プリント			
2	3節 感染症の予防 ⑤感染症発生の要因 ⑥感染症予防の3原則			プリント			
3	2章 感染症の各論 1節 理容・美容と感染症 感染症まとめ（期末試験対策）			プリント			
4	期末試験（後期）						
到達目標	理容師として必要な感染症に対する知識、予防方法を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。						
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。 なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書 配布プリント						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	佐藤				
科目名	衛生管理(衛生管理技術)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8		
教育目標・ ねらい	• 消毒法の種類や必要な条件に関する知識を幅広く身につけることで理容師として 安心、安全かつ衛生的に施術することができる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	第一章 消毒法総論						
2	第一章 消毒法総論 消毒法とは ①病原微生物と非病原微生物 ②消毒の原理						
3	第一章 消毒法総論 消毒の意義 ①汚染、感染、発病と消毒の意義、②殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義						
4	期末試験（前期）						
到達目標	理容師として必要な消毒の種類知識を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。						
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	• 日本理容美容教育センター指定教科書 • 配布プリント						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	佐藤				
科目名	衛生管理(衛生管理技術)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8		
教育目標・ ねらい	理容・美容の業務と順守すべき消毒法の関係を理解し、知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	第一章 消毒法総論 理容・美容の業務と消毒との関係 ①消毒に関連のある法の規定、②消毒を怠った場合の危険と理容師・美容師の責任						
2	第一章 消毒法総論 消毒法と適用上の注意 ①消毒法の種類 ②消毒（殺菌）に必要な条件						
3	第一章 消毒法総論 消毒法と適用上の注意 ③病原微生物の抵抗力、④消毒法・消毒薬使用液の使用、保存上の注意						
4	期末試験（後期）						
到達目標	理容師として必要な理容所における消毒法を学び、国家資格を得るにあたって十分に必要な知識を習得している。						
評価方法	各期筆記試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本理容美容教育センター指定教科書</li> <li>・配布プリント</li> </ul>						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	保健（人体）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標 ・ねらい	人体の構造、機能に関する知識を、理容・美容技術と関連させながら学ぶ。また、人体に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 ・人体各部の名称、・頭部、顔部、頸部の体表解剖学				
2	第2章 骨格器系 ・骨の種類と構造、骨の連結、骨格器系とのそのはたらき				
3	第3章 筋系 ・筋の種類とその特徴、主な骨格筋とそのはたらき、表情筋と表情運動、理容・美容の作業と筋疲労				
4	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な人体の構造及び機能を学び、国家資格を得るために十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期末試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	保健（人体）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標 ・ねらい	人体の構造、機能に関する知識を、理容・美容技術と関連させながら学ぶ。また、人体に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。				
授業回	学習内容				備 考
1	第4章 神経系 ・神経系の成り立ち、中枢神経とそのはたらき、末梢神経とそのはたらき				
2	第5章 感覚器系 ・視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚				
3	第6章 血液・循環器系 ・血液のあらまし、毛輪液循環の仕組み、血液循環経路、心臓と血管のはたらき、リンパ管系の仕組みとはたらき				
4	期末試験（後期）				
到達目標	理容師として必要な人体の構造及び機能を学び、国家資格を得るために十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期末試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	佐藤		
科目名	保健（皮膚科学）	学年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	15
教育目標 ・ねらい	皮膚科学に関する知識を、理容・美容技術と関連させながら学ぶ。また、皮膚科学に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。				
授業回	学習内容				備考
1	第1章 皮膚の構造① ・皮膚の表面、皮膚の断面、表皮				
2	第1章 皮膚の構造② ・表皮と真皮の境、真皮、皮下組織				
3	第1章 皮膚の構造③ ・皮膚の部位差、総まとめ				
4	第2章 皮膚の付属器官の構造① ・毛、脂腺（皮脂腺）				
6	第2章 皮膚の付属器官の構造② ・汗腺、爪				
7	第2章 皮膚の付属器官の構造③ ・総まとめ				
8	期末試験（前期）				
到達目標	理容師として必要な皮膚科学を知識を学び、国家資格を得るにあたって、十分に必要な知識を習得している。				
評価方法	各期末試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	佐藤				
科目名	保健（皮膚）	学年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	15		
教育目標 ・ねらい	皮膚科学に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。国家資格を得る為に必要な皮膚科学の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。						
授業回	学習内容			備考			
1	第3章 皮膚の循環器系と神経系① ・皮膚の血管、皮膚のリンパ管						
2	第3章 皮膚の循環器系と神経系② ・皮膚の神経、総まとめ						
3	第4章 皮膚と付属器官の生理的機能① ・対外保護作用、体温調節作用、知覚作用と皮膚反射						
4	第4章 皮膚と付属器官の生理的機能② ・分泌排泄作用、呼吸作用、呼吸作用						
5	第4章 皮膚と付属器官の生理的機能③ ・吸収作用、貯蔵作用						
6	第4章 皮膚と付属器官の生理的機能④ ・免疫・解毒・排除作用、再生作用						
7	第4章 皮膚と付属器官の生理的機能⑤ ・毛のはたらき、爪のはたらき、総まとめ						
8	期末試験（後期）						
到達目標	皮膚科学に関する知識を、理容・美容技術と関連させながら学ぶ。また、皮膚科学に関する知識を幅広く身につけることで理容師として安心、安全に施術することができるのに加え、より効率性、効果性を高めることができる。						
評価方法	各期末試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない						
テキスト	『保健』（理容美容教育センター編）、配布プリント（まとめ・練習問題）						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	香粧品化学	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	理容師として毛髪のみならず薬剤といった香粧品に関する幅広く知識を身につけることで、安全に安心して施術することができる。国家資格を得る為に必要な香粧品の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容				備 考
1	・香粧品の一般的概念と、香粧品に関わる法律について (香粧品概)				
2	・香粧品の一般的概念と、香粧品に関わる法律について (法律や規制)				
3	・香粧品の取り扱い方法や安全性の基準について (香粧品の取り扱い)				
4	・香粧品の取り扱い方法や安全性の基準について (安全性)				
5	・香粧品の剤型や性状の特性、皮膚や頭皮の構造 (香粧品の種類、性状)				
6	・香粧品の剤型や性状の特性、皮膚や頭皮の構造 (皮膚)				
7	・香粧品の剤型や性状の特性、皮膚や頭皮の構造 (頭皮)				
8	・期末試験 (前期)				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>香粧品に関する法律について知ったうえで、施術を可能にする。</li> <li>香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。</li> <li>頭皮・毛髪用の香粧品については、特徴・使用法・関連法規を説明可能にする。</li> </ul>				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数 (全体の2/3) を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本理容美容教育センター指定教科書</li> <li>配布プリント</li> </ul>				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	鈴木		
科目名	香粧品化学	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	理容師として毛髪のみならず薬剤といった香粧品に関する幅広く知識を身につけることで、安全に安心して施術することができる。国家資格を得る為に必要な香粧品の基礎的知識を身につけ、習得することを目的とする。				
授業回	学習内容				備 考
1	・香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴 (水溶性原料)				
2	・香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴 (油性原料)				
3	・香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴 (界面活性剤)				
4	・香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴 (乳化について) ※実験と連動して説明				
5	・香粧品の一般的な原料について配合目的や特徴 (高分子化合物)				
6	・香粧品の法律・原料・剤型の確認				
7	・香粧品の一般的な原料について (色材と香料)				
8	・期末試験 (後期)				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>香粧品に関する法律について知ったうえで、施術を可能にする。</li> <li>香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。</li> <li>頭皮・毛髪用の香粧品については、特徴・使用法・関連法規を説明可能にする。</li> </ul>				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本理容美容教育センター指定教科書</li> <li>配布プリント</li> </ul>				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	大草				
科目名	文化論（理容文化論）	学年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	8		
教育目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と西洋のヘア、メイク、服装の変遷を学ぶ</li> </ul>						
授業回	学習内容			備考			
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総論</li> <li>・日本の理容業美容業の歴史</li> </ul>						
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション文化史 日本編①</li> </ul>						
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション文化史 日本編②</li> </ul>						
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験（前期）</li> </ul>						
到達目標	現代までのファッション（髪型・メイク・服装）の変遷を知り、美の成り立ちを理解する。						
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本理容美容教育センター指定教科書</li> </ul>						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	大草				
科目名	文化論（理容文化論）	学年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	8		
教育目標・ねらい	・日本と西洋のヘア、メイク、服装の変遷を学ぶ						
授業回	学習内容			備考			
1	・ファッション文化史 日本編③・④						
2	・ファッション文化史 西洋編①						
3	・ファッション文化史 西洋編②						
4	・期末試験（後期）						
到達目標	現代までのファッション（髪型・メイク・服装）の変遷を知り、美の成り立ちを理解する。						
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。						
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	大草				
科目名	文化論（理容色彩学）	学年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	15		
教育目標・ねらい	・色彩学の基礎を理解し、理美容のデザインに応用できるようにスキルアップを目指す。						
授業回	学習内容			備考			
1	・色の機能（色の持つ役割、機能）						
2	・光の性質（光、色と波長、スペクトル）						
3	・視覚系の構造と色、照明						
4	・色の心理的効果、視覚効果						
5	・マンセル表色系						
6	・色彩調和（自然から学ぶ配色、配色技法）						
7	・配色イメージ						
8	・ファッションにおける色彩						
到達目標	現代までのファッション（髪型・メイク・服装）の変遷を知り、美の成り立ちを理解する。						
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は、評価対象としない。						
テキスト	・授業毎にプリント配布						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	畠中				
科目名	運営管理（マーケティング）	学年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	8		
教育目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ。</li> <li>・人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ。</li> </ul>						
授業回	学習内容			備考			
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営とは何か、</li> <li>・理容業美容業の経営について、</li> <li>・経営戦略とは</li> </ul>						
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界の概要、</li> <li>・競争の変化、</li> <li>・サービスとしての理容美容</li> </ul>						
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金管理の重要性、</li> <li>・収支と損益、</li> <li>・会計の考え方</li> </ul>						
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験（後期）</li> </ul>						
到達目標	経営とは事業を運営し、成果を実現し続けることであり、サービスを提供し、顧客を満足させることで収益を持続的に得ることになる。その活動を創り出し、維持していくための基礎的知識を学習し、将来のキャリアに活かせるように習得する。						
評価方法	期末試験（100点満点）で評価する。なお、所定授業時間時間（全体の2/3）を下回る学生は、受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本理容美容教育センター指定教科書</li> </ul>						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	鈴木(徹)							
科目名	運営管理（店舗設計）	学 年	1	実施時期	後期					
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8					
教育目標・ ねらい	理美容師法と建築基準法をもとに、サービス提供の場である店舗の演出手法を学び、魅力ある店舗づくりおよび創造性溢れる店舗デザインを考察する。									
授業回	学習内容			備 考						
1	・店舗力の価値 ・マーケット動向 ・未来展望	店舗写真のスライド鑑賞 美容業界の変遷とマーケット動向 次世代型理美容サロンの展望								
2	・店舗レイアウト	人間行動の心理と機能 レイアウトの比較（討論形式）								
3	・店舗レイアウト ・法的基礎知識	人間行動の心理と機能 レイアウトの比較（討論形式） 理美容師法と建築基準法								
4	・色 ・光 ・演出 色と光の基礎知識 レポート提出	相互の関係と演出手法								
到達目標	基本的な建築基準法と理美容師法を学び、店舗設計と関連付けて、それらの知識を活かし、独自な仮想店舗（仮想サロン）を創造する。									
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は、評価対象としない。									
テキスト	・授業毎にプリント配布									
特記事項										

学科	理容科		担当教員	高橋、池田、伊原		
科目名	理容技術理論		学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようになる。					
授業時間数	学習内容				備 考	
1	理容技術の基礎	(1) 人体の各部の名称 (2) 理容技術における技術姿勢 (3) 理容技術とトレーニング				
2	理容マッサージ	(1) マッサージの意義と効果 (2) 理容マッサージのマニピュレーション				
3	理容用具	理容用具の名称 ～シザース、レザー、クリッパー、コード、ブラシ、ヘアアイロン、ヘアドライヤー～				
4	シャンプーイング& リンシング	(1) シャンプーイングの方法 (2) シャンプーイングの技法 (3) リンシング				
5	ヘアトリートメント	(1) ヘアトリートメントの種類 (2) ヘアトリートメントの一例				
6・7	ヘアカッティング	(1) ヘアカッティングの基本原則 (2) デザインヘアのスタイル別カットシステム (3) デザインヘアカットの一例				
8	パーマネントセット	(1) パーマネントウェービング (2) ワインディング (3) アイアニング (4) デジタルパーマ				
9	ヘアカラーリング	(1) 色彩の原理 (2) 染毛剤の種類と原理 (3) 染毛剤の安全性と取扱上の注意 (4) ヘアカラーリング技術プロセス				
10・11	シェービング	(1) シェービングの要件 (2) シェービングの種類 (3) シェービングの基本技術と要領 (4) シェービングプロセス				
12	理容エステティック	(1) スキンケア (2) フェイシャルケア				
13・14	ヘアカッティング	(1) ヘアカッティングの基本原則 (2) ヘアカッティング の一般手順				
授業時間数	学習内容				備 考	

15	学期末試験	学科試験	
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的知識を習得する。		
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論1・2」		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科		担当教員	高橋、池田、伊原		
科目名	理容実習		学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	540
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようになる。					
授業回	学習内容				備 考	
1・2	基礎トレーニング	正しい道具の持ち方や使用方法ならびに正しい作業姿勢を教科書に沿って学び、理容師としての基礎的知識技能を習得する。				14時間
3・4	理容マッサージ	お客様に快感を与えられるマッサージ理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接客力を習得する。				14
5・6	ブロッキング	カッティングやワインディングなどの施術を正確に容易にするために、正しいスライスで毛髪を分け、頭部をいくつかに区分するブロッキング技術を習得する。				20
7~12	セイムレイヤー	セイムレイヤーカットの特徴である全ての毛髪が同じ長さで切り揃えられるよう、ヘアカッティング理論と技術を習得する。				42
13~24	ワインディング	パーマネントウェーブ技術に必要な理論ならびにワインディング技術（上巻き、下巻き）を習得する。				90
25~30	理容シャンプー	お客様に快感を与えられるシャンプー理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接客力を習得する。				42
31~35	フェードカット	フェードカットスタイルの特徴である美しい刈り上げの色彩と、シルエットを表現できるよう、ヘアカッティング理論とスタンダードカット技術並びにプローセット理論・技術の習得。				30
36~41	ワンレングスカット	ワンレングスカットの特徴である同一線上のカットラインを表現できるよう、ヘアカッティング理論と技術並びにドライヤーとヘアブラシによるプローセット理論及び技術を習得する。				40
42~49	グラデーションカット (インサイド・アウトサイド グラデーション)	グラデーションスタイルの特徴である段差の種類を学ぶ（インサイド・アウトサイド）ことで、グラデーションカットデザインの幅を理解し、目的に合わせて使い分けるよう理論及び技術を習得する。				40
50~54	グラデーション ボブカット	グラデーションボブスタイルの特徴である美しい丸みのあるシルエットとカットラインを表現できるよう、ヘアカッティング理論・技術並びにプローセット理論・技術を習得する。				40

授業回	学習内容		備 考
55～61	シェービング	お客様に快感を与えられシェービング理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接客力の習得。	56時間
62～68	アップスタイル	アップスタイルに必要な美しいフォルムバランスや、毛流れ、面の艶を表現できるよう、仕込み(事前準備)やスタイリング剤の種類・量、多彩なコーム・ブラシによるアップスタイルの基礎技術を習得する。	56
69～75	フォーマルカット	国家試験合格を見据えながらミディアムカットスタイル(試験課題)をデザインするために必要なヘアカッティング理論とスタンダードヘアカット技術の習得。	56
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的技能を習得する。		
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	大草		
科目名	理容美術（デッサン）	学年	1	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	15
教育目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔の各パーツを用いて、鉛筆による表現で基本のフォルムの理解と表現。</li> <li>基礎的デザインの描写力を涵養する。</li> </ul>				
授業回	学習内容				備考
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>“顔の描き方”-1 「目」の描き方(正面向き)① (色鉛筆仕上げ)</li> </ul>				
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>“顔の描き方”-1 「目」の描き方(正面向き)② (色鉛筆仕上げ)</li> </ul>				
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>“顔の描き方”-2 「鼻」の描き方(正面向き)① (色鉛筆仕上げ)</li> </ul>				
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>“顔の描き方”-2 「鼻」の描き方(正面向き)② (色鉛筆仕上げ)</li> </ul>				
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>“顔の描き方”-2 「鼻」の描き方(正面向き)③ (色鉛筆仕上げ)</li> </ul>				
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>「口唇」の描き方(正面向き)① (色鉛筆仕上げ)</li> </ul>				
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>「口唇」の描き方(正面向き)② (色鉛筆仕上げ)</li> </ul>				
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>「正面顔」の描き方-顔のバランス(正面向き) (色鉛筆仕上げ)</li> </ul>				
到達目標	(1) 鉛筆の持ち方と使い方を知る。そのうえで、鉛筆での色の段階を制作すると共に色の濃淡を描くことができる力を身につける。(2) 基礎的な画法を身につける。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない。				
テキスト	プリント配布				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	大草				
科目名	理容美術（造形学）	学年	1	実施時期	後期		
授業形態	演習	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	15		
教育目標・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>幾何形体を用いて、鉛筆による表現で基本のフォルムの理解と実践（表現）</li> <li>造形要素と理容美容のデザイン要素を関連付け、造形力と創造力を涵養する</li> </ul>						
授業回	学習内容			備考			
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔のバランスとヘアデザイン</li> <li>パーツのバランス</li> </ul>						
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>正面、斜め、横顔の描き方①</li> <li>形、大きさ、テクスチャー</li> </ul>						
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>正面、斜め、横顔の描き方②</li> <li>形、大きさ、テクスチャー</li> </ul>						
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>黄金比とバランス</li> <li>シンメトリーとアシンメトリー</li> </ul>						
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハーモニーとコントラスト</li> <li>リズムと調子</li> </ul>						
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>『光と影／陰・遠近法』の理解と実践（表現）①</li> </ul>						
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>『光と影／陰・遠近法』の理解と実践（表現）②</li> </ul>						
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>P C C S トーンマップとカラーダイヤルを用いた貼付作業</li> </ul>						
到達目標	<p>(1) 鉛筆の持ち方と使い方を知る。そのうえで、鉛筆での色の段階を制作すると共に色の濃淡を描くことができる力を身につける。(2) 基礎的な描写力を習得する</p>						
評価方法	<p>提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない。</p>						
テキスト	プリント配布						
特記事項							

学科	理容科	担当教員	杉崎				
科目名	表現技術（話し方）	学年	1	実施時期	前期		
授業形態	演習	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	15		
教育目標・ねらい	・職業人として必要な基礎的なコミュニケーションの活用術を学び、ビジネス能力検定ジョブパス3級合格を目指します。						
授業回	学習内容			備考			
1	・社会人としての心構え。話し方、聞き方のポイント。						
2	・好感のもたれる話し方① (丁寧語、尊敬語、謙譲語の練習問題と復習)						
3	・好感のもたれる話し方② (丁寧語、尊敬語、謙譲語の練習問題と復習)						
4	・電話応対（マナーと配慮するポイント）						
5	・電話の受け方① (さまざまな場面での受け方の練習)、マニュアル作り						
6	・電話のかけ方② (さまざまな場面での応対練習)、マニュアル作り						
7	・電話のかけ方③ (さまざまな場面での応対練習)、マニュアル作り						
8	・話し方論まとめ。練習問題と一般常識（税金など）						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人としての言葉遣い及びビジネスマナーを身につける。</li> <li>12月のジョブパス検定3級合格する。</li> </ul>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。</li> </ul>						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスマナーワークブック</li> <li>ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト</li> </ul>						
特記事項							

学科	美容科	担当教員	杉崎		
科目名	表現技術(国語と文章)	学 年	1年	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	会社の組織や役職、社内・社外文書やメールを通してビジネスの実務を身につける。ビジネスに 関連する用語や時事問題など、新聞記事を活用して社会知識を深める。				
授業回	学習内容				備 考
1	・PCの活用・組織図作り（文書の流れの理解促進）				
2	・ビジネス文書の概要を知る・受発信の流れと表記法				
3	・文書の種類・社内外文書、帳票、稟議書、議事録など				
4	・社内外文書の相違点・様式の説明				
5	・文書構成のまとめ・社交文書の書き方				
6	・グラフの種類と作成ポイント・メール作成の注意点				
7	・新聞記事の読み方・ビジネスで使用頻度の高い漢字				
8	・直近の過去問題を解く				
到達目標	社会人としてのスキルを身につける				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	ビジネスマナーテキスト（ワークブック）・ ビジネス能力検定3級テキスト				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	高橋、池田、井原		
科目名	ビジネスマインド	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	国際理容美容専門学校で学ぶ目的・『何のために学ぶのか』。を明確にするために、思考を整理する。				
授業回	学習内容				備 考
1	・国際理容美容専門学校で学ぶ目的を明確にする				
2	・自己の目標を立てる（目標設定）				
3	・クラスの目標を立てる（チームの目標設定）				
4	・個人のアクションプランを立てる（行動指針）				
5	・クラス共通のアクションプランを立てる（行動指針）				
6	・P D C A サイクル（『振り返り』とは）				
7	・P D C A サイクル（『改善：KAIZEN』とは）				
8	・問題解決という思考とは				
到達目標	・個人目標とクラス目標を設定する、・P D C A サイクル（思考）を獲得する。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	・授業毎にプリント配布				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	高橋、池田、井原		
科目名	ビジネスマインド	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	・実務実習（インターンシップ）に向けて、事前学習する。				
授業回	学習内容				備 考
1	・キャリアと仕事へのアプローチ				
2	・指示の受け方と報告、連絡、相談				
3	・電話対応と来客対応				
4・5	・職場でのコミュニケーション				
6	・実務実習に向けて①				
7	・実務実習に向けて②				
8	・実務実習の報告会				
到達目標	・実務実習に参加し、職場でのビジネス対応が一定レベルで実践できる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	・授業毎にプリント配布				
特記事項					

学科	理容科	担当教員	井川		
科目名	ビジネスマインド (情報処理 OA)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	サロンビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、必要な知識を身につけると同時に、プレゼンテーションツールとしてソフトが使えるスキルを学ぶ。				
授業回	学習内容				備 考
1	・メディアリテラシー～情報を取捨選択～ (メディアの特性理解、情報収集と活用方法)				
2	情報モラル(著作権、肖像権、個人情報等) SNSトラブルについて考える(LINE教材使用)				
3	ウインドウズ基本操作のネット活用読み解く				
4	・ビジネス文書作成 (各部名称～機能紹介、文字入力～書式設定、ページ設定、表の挿入、編集、 画像の挿入～テキストの折り返し)				
5	書式設定、表の挿入～編集、画像の挿入～テキストの折り返し				
6	・Excel基礎 (各部名称、データ入力、四則計算、達成率、構成比、オートフィル、SUM関数、 絶対参照、表示形式の設定)				
7	・表作成 (行・列の操作、シートの挿入、関数、データベース→顧客管理、並べ替え、抽出)				
8	・パワーポイントの基本操作 (スライド作成、編集、画像の挿入、アニメーション設定)				
到達目標	・PC操作に必要な知識を身につけると同時に、エクセルやパワーポイントが プレゼンテーションツールとして使えるようになる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	・プリント教材				
特記事項					

学科	理容科		担当教員	立花					
科目名	高度総合美容技術理論		学 年	1	実施時期 後期				
授業形態	演習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 15				
教育目標・ ねらい	サロン実務において必要な知識の習得								
授業回	学習内容				備 考				
1・2	毛髪化学 1	①毛髪と構造の働き ②タンパク質について ③キューティクルの構造と役割 ④細胞膜複合体の構造と役割							
3・4	毛髪化学 2	⑤コルテックスの構造と役割 ⑥間充物質の働き ⑦メデュラの構造と役割							
5・6	毛髪のカウンセリング	①毛髪の見極め方 ②くせ毛やダメージについて ③毛髪の健康状態について							
7	ヘアケア剤	①界面活性剤について ②シャンプーとトリートメント剤について ③スタイリング剤とホームケアアドバイス							
8	検定対策	ヘアケアマイスタークリアコースを合格するために、過去問題および予想問題を回答し合格点数をとるだけの知識を修得する							
到達目標	ヘアケアマイスタークリアコースを合格する								
評価方法	ヘアケアマイスタークリアコースを合格する								
テキスト	ヘアケアマイスタークリア								
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える								

学科	理容科		担当教員	高橋、池田、伊原						
科目名	高度総合理容技術実習 (スタイリストコース)		学 年	1	実施時期	後期				
授業形態	実習		必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位)	150				
教育目標・ ねらい	理容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力と想像力を高める。									
授業回	学習内容				備 考					
1~5	コンテストヘア	髪の毛を自由に表現するために必要なカッティング技術とプローセット技術を応用し、クリエイティブなヘアスタイルを作成するための技術を習得する。				42時間				
6~10	メンズレイヤー	レイヤーカットの特徴である毛先の動きや毛流れなどの質感を表現出来るようになる為に、ヘアカッティング理論・技術ならびにプローセット理論・技術を習得する。				26				
11~15	メンズグラデーション	グラデーションカットの特徴であるウエイトをコントロールし、バランスのとれたスタイルを表現できるようになる為に、ヘアカッティング理論・技術ならびにプローセット理論・技術を習得する。				26				
16~24	クラシカルバック	クラシカルバックスタイルの特徴である美しい調和のとれたスクエアシルエットを表現できるようになるため、ヘアカット技術並びに多彩なヘアブラシによるプローセット技術を習得する。				50				
25	来客実習	教員による施術（シャンプー、マッサージ、シェービング、ブロー）のサポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセスを実践的に経験する。				6				
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにする技術を習得する。									
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない									
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」									
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う									

学科	理容科		担当教員	高橋、池田、伊原						
科目名	高度総合理容技術実習 (リラクゼーションコース)		学 年	1	実施時期	後期				
授業形態	実習		必修・選択 の別	選択必修	授業時間 (単位)	150				
教育目標・ ねらい	理容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力と想像力を高める。									
授業回	学習内容				備 考					
1~8	ネイル	ネイリスト技能検定試験3級合格に向け、ネイルケア・カラーリング・ネイルアートなどネイル理論・技術の習得。				42時間				
9~13	レディスシェービング エステ	レディースシェービングとフェイシャルエステを組み合わせ、お客様に心地よさと美しさを与え、素肌を美肌にするための知識と技術を習得する。				36				
14~24	ブライダルシェービング エステ	ブライダルシェービングの基礎知識と、デコルテ・背中・腕・指などの各部位のシェービング理論・および技術を習得する。				66				
25	来客実習	教員による施術（シャンプー、マッサージ、シェービング、ブロー）のサポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセスを実践的に経験する。				6				
到達目標	肌質やスキントラブルを分析し、シェステ（＝シェービングエステ）を駆使しながらモデルの肌を美しくする技能を身につける。また、ネイルやメイクなども加えることにより、トータルビューティーまで発展させた立案力・提案力を身に附けている。									
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない									
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」									
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う									